

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100035		
法人名	有限会社サンセイ		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	富士宮市万野原新田3163-1		
自己評価作成日	令和5年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和5年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明生・豊生・共生」の理念は変わらず、ホーム内で年間目標を立て入居者様個々のニーズに合わせたサービスを提供出来る様に心掛けています。
 毎月のお楽しみ会を企画し、楽しんで頂けるように努めています。
 定期的に、マッサージの先生にも訪問して頂き入居者様に施術して貰っています
 職員には毎月ミーティングの際に社内研修も行き、介護の知識や技術の向上を常にはかっています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年6月に着任した管理者によると、当事業所には常に新たな観点から改善策を実施しようという伝統があり、ベテランを含め職員もその志で介護に取り組んでいる。職員の勤務体制の改善についてはスタッフ会議で改善策を提案し、職員の意見を聞き取り改善策を試行しながら、次のスタッフ会議において結果の見直し作業を図っている。食事支援は、食材のネット購入から職員が週1回買出しすることに変更し、旬な食材やより新鮮なおいしい食事への改善を心掛けている。清掃の方法については、手順を見直す事により負担を減らし新しい清掃用具を購入し、より清潔にすることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新事業年度に際し自社の理念と方針についてスタッフ会議等で取り上げ、それに基づいて、年度目標を作成しています。理念・年度目標を施設内に掲示し共有と意識付け実践を図っています。	法人理念「明生・豊生・共生」に沿って作成した令和4年度事業所目標「自分がしてもらいたい介護をする」を事務室内と共用空間に掲示し、スタッフ会議で話し合いの場を設け、職員の個人目標にも関連させて、共有と実現を目指し実践に繋げている。令和5年度の目標を職員全員で策定中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議へ地域代表の方の出席、文化祭への入居者の作品出展と見学・職員の地域清掃活動への参加等を通じ交流を図りたいと思っています。	地域清掃活動に職員が参加し、市内の高校生の職場実習を受入れている。地域の文化祭への利用者の作品出展のお誘いがあったが、コロナ禍で不可能となった。週2～3回の事業所周辺の散歩時に、近隣の住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護実習の受け入れや施設便りを活用し地域の皆様に認知症等の様々な情報提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催していましたが、昨年同様新型コロナウイルス感染症予防のため運営状況等を書面にして配布しています。会議の開催についてのお知らせに意見・要望を記入して返信して頂くよう勧めています。	運営推進会議を奇数月に書面開催し、議事録を町内会長に郵送し市高齢介護支援課に持参または郵送している。また家族全員に開催前に議案等の案内を郵送している。郵送時には文書で意見、要望等を求めている。	コロナ終息後は、町内会長や市高齢介護支援課職員、家族等が参加する運営推進会議を早期に再開することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため運営状況等を書面にして報告し、必要時は随時連絡を取り、協力関係を築くよう心がけています。	市高齢介護支援課には運営推進会議議事録を持参または郵送し、連絡、報告等はメールや電話で行っている。地域包括支援センターが主催する「小規模ホーム部会」はコロナ禍で会合を中止しており、オンライン研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社の各施設の職員で構成する身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束の廃止に取り組んでいます。職員会議での話し合い・研修等を実施し身体だけでなく言葉による拘束についても気をつけています。	身体拘束廃止委員会は法人6施設の管理者をメンバーとして毎月1回開催し、その結果を事業所に持ち帰り職員に説明し共有を図っている。社内研修を年1回開催し、スタッフ会議の中でも研修を実施し、職員全員で話し合いの場を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にも精神的・感情的にも虐待がないように支援に取り組んでいます。社内研修も実施し職員の意識付けを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利を大切にし侵害しないよう配慮しています。日常生活自立支援事業や成年後見制度についても知識を深め、問い合わせに答えられるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定の際には、書面を用いてご家族様に十分に説明を行い、利用者様・ご家族様の不安や疑問にも誠実に対応し、ご理解・納得を頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催についてのお知らせに意見・要望を記入して返信して頂くようご家族様をお願いしています。面会時にも近況をお伝えすると共に、意見や要望を伺うようにしています。	家族の面談は、玄関でパーティションを挟んで距離を置いて実施している。ほとんどの家族は、通院の同伴や利用料金支払いのために定期的に来訪しており、その際に意見や要望等を聞くようにしている。遠方の家族は来訪が少ないが、電話で意見や要望等を聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で職員の意見や提案を受け運営に反映しています。申し送り時や日常業務中にも相互に意見や提案を話し合える体制を作り、運営に活かすよう努めています。	月1回、月末近くで開催するスタッフ会議では事前にレジメを作成、配布し発言し易いようパート→職員の順に意見や提案を求めている。日々の業務中や申し送り時、年2回実施する職員個人面談の際も意見、提案を聞きできるだけ反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務態度や利用者様との関わり方などを客観的に観察して評価に努めています。また、職員個々の思いや状況の理解に努め、職員が向上心を抱いて働けるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内研修を実施しています。社外研修への参加も勧め、学んだ事を共有し、職員の介護知識や技術の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士宮市介護事業者連絡会の小規模ホーム部会に参入しているがコロナ禍の為、現在は余り交流が出来ていない状況です。落ち着き次第交流の機会も増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者様・ご家族様との面談を実施し、利用者様の生活歴や要望等のアンケートの記入をお願いしています。見守りや声掛けを密に行い不安や心配をくみ取るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を兼ねご家族様と面談を行い、その後も利用者様の状況や様子をお伝えしながら、心配事・困りごと・要望を伺い、適宜、相談・援助に応じ信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、病院の担当者・ケアマネ等から情報提供を頂き、施設見学や面談の際に、利用者様やご家族様から状況・状態、心配事や要望をお伺いして必要とする支援を考慮するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には自分でできることは自分でしていただくよう勧め、見守りを重視しています。家事等もできる範囲でお手伝いをしていただくようお願いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や個人の生活必需品の用意はご家族様に頂き、面会時や定期的なお便りで状態や様子をお伝えしています。例年は年2回、家族会を開催して共に過ごして頂くよう支援していますが現在は中止しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が作成した年始や季節の挨拶状をご家族様やご親族様に送ったり、新型コロナウイルス感染予防策をしての玄関先での面会によって関係の維持に努めています。	友人との面談は玄関でパーティションを挟んで距離を置いて実施している。馴染みの理容室を友人と一緒に利用したり、家族と一緒に墓参りをする利用者もいる。利用者が作成した年賀状と季節の挨拶状を家族や親族に郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者様一人ひとりの状況をしっかり把握して、利用者が相互に声を掛け合い、気遣いや思いやりを示し合って、良い関係が保てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も、年始や季節の挨拶状を送り、気遣いを示すように努めています。相談や支援にも快く応じるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話によく耳を傾けて、言葉を大切に拾い、様子をよく観察して、思いや希望や要望を汲み取るように努めています。ご家族様からも話や意見を伺い本人本位の支援を心掛けています。	利用者の言葉、思いや意向を丁寧に聞き取り、業務日誌やケアカンファレンスシート等に丁寧に記録し職員間で共有し、家族にも伝えている。家族との面談や電話での情報交換を密にし、家族からの意見や要望等を聞く事を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様に生活歴等のアンケートを記入して頂いたり、面会時にもこれまでの暮らしや生活環境等について話を伺い情報を収集し把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状況・状態・能力をよく観察して午前・午後・夜間と分けて記録をしています。職員間の情報の共有を図り利用者様の状況・状態を把握して支援するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見・意向や思いをお伺いしたり、職員会議やケア日誌、ケアカンファレンスシート等を活用して職員の意見も取り入れ現状に即した支援ができるように介護計画を作成しています。	原則、長期3年、短期1年で見直しを図り急変時には随時見直しを行っている。カンファレンスを随時開催し、職員全員がカンファレンスシートに記入し、ケアマネージャーがまとめている。全利用者についてのモニタリングは、毎月実施し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々に、1日の様子や状況・気づきを午前・午後・夜間と分けて記録しています。朝・夕の申し送りをしっかり行い、情報の共有を図り、ケアや介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々移り変わる思いや認知症状に目敏くあって、個々のニーズに合わせて臨機応変に支援するよう努めています。利用者様またご家族様の要望にも柔軟に対応するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様や地域の方々の暖かな気遣いや支援に感謝し、利用者様が安心して暮らせるように支援しています。地域の皆様を大切にし、協力・信頼関係をさらに培っていきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様とご家族様の意向を重視して決め、受診はご家族様として頂いています。受診情報提供表の作成・必要に応じて職員の同行も実施し、受診後は受診票を記入して頂いています。	協力医の外来が3人、在宅診療医の訪問診療が3人、従来からのかかりつけ医の外来が3人と利用者と家族の希望に沿い受診している。外来受診は家族が同伴し対応しているが、場合により職員の同行もある。在宅診療医の訪問診療は月2回で、24時間対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、口頭・ケア日誌・連絡記録表によって、相互に状態・気づきや情報の提供を行い、利用者様が適切な看護を受けられるよう支援しています。随時、相談や看護指導をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には、病院関係者に必要な情報提供をすると共に、病院側からも様態の説明・指示を受けています。退院時にも状態や生活上の注意点等の指導の説明を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて、ご家族様に説明し、意向の確認書を頂いています。重度化・終末期に際し、再度、説明し意向を確認、看取りの承諾書を頂きます。看護師・かかりつけ医・協力医との連携をとり、チームで支援するよう取り決めていきます。	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」について家族に説明し確認いただいている。重度化した時や終末期には再度説明し「看取り介護についての同意書」を受け取り支援に繋げている。この1年で利用者1人を看取ったが、協力医は夜間にも往診し対応してくれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応マニュアル・119番通報マニュアル・利用者個別の救急時情報提供書を作成してあります。施設にAEDを設置し、管理者は救急救命講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル作成・近隣の方々への災害時の協力をお願い等をしてあります。初期消火・通報・避難及び職員連絡網の確認訓練を年2回実施しています。夜間時の避難訓練も実施しています。	年2回の防災訓練では消火訓練、通報訓練、避難訓練、連絡網の確認を実施している。直近2回の訓練では、夜間の避難に対応した訓練はできなかった。法人策定のBCPIに対応する新しい防災マニュアルを作成中である。近隣の住民への防災協力の声掛けは随時行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重し、プライバシーの保護に努めるよう、スタッフ会議や申し送り時に定期的に話し合っています。施設内にも注意書きを掲示したりして意識付けを図っています。	スタッフ会議、申し送りや研修時に、利用者の尊重とプライバシーの確保について話し合いの場を設け、日々の介護の中で留意し実践している。台所に「注意書き」を掲示し、職員に対し利用者への「さん」付けの励行や情報管理の徹底等を働き掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者様が自由に思いや希望を述べるよう待つ姿勢を保ち話を傾聴するよう心掛けています。利用者様の意思を尊重し、可能な限り自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・体操・お茶・入浴等の時間は決まっていますが、それ以外は個々のペース・生活の仕方でものごとで頂き、利用者様の状況や気持ちを大切にその人らしい暮らしの実現に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望や個性に合わせて頭髪は理容師にカットして頂いています。更衣の際は洗濯済みの清潔な洋服の中からご自分で選び着用して頂いています。身繕い等にも配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の手作りの家庭的な食事を提供しています。利用者様の好みや習慣を大切に、職員も共に食卓を囲み状態や状況に合わせて支援しています。利用者様には準備や片付けなど、できることを手伝って頂いています。	メニューは冷蔵庫の中を見て決定し、職員全員が交代で調理している。利用者から随時希望を聞いている。現在、月1回は47都道府県の名物料理をお楽しみランチとして提供している。食材は週1回、職員が買出し対応している。利用者2～3人は、テーブル拭き、食器洗い等出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事・水分摂取量をケア日誌に記録して管理しています。生活の自立度・状況・状態に応じた支援をしています。食事の献立を記録して栄養の偏りがないよう調理の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。毎夕食後は、入れ歯の方は外していただき、洗浄液に浸け置きし清潔保持しています。(必要に応じ介助)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助を要する方は、排泄時間を記録し定期的にトイレにお連れして排泄を勧めています。自立の方、要見守りの方は自立排泄を継続できるよう支援しています。排泄状況をケア日誌に記録しています。	自立の利用者3人はご自身で排泄されるが、場合によっては声掛けをに対応している。要介護の2人は排泄記録表でチェックしながら声掛けをし、付き添いで対応している。全介助の4人は職員が付き添い介助にて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動などに気を付けて、なるべく自然な排便を促進しています。排便の有無を排便管理表やケア日誌に記録して管理し、便秘の方は、看護師やかかりつけ医と連携して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後14時からの入浴して頂いています。利用者様の体調や状況に応じて臨機応変に対応しています。完全個室対応でゆったりと入浴して頂けるよう配慮しています。	原則、週3回14時より入浴しているが、外出あるいは体調を考慮して回数や時刻を柔軟に変更している。入浴時に浴室内に音楽を流したり、入浴剤を使用して入浴を楽しむ工夫をしている。入浴拒否の利用者や同性介助への希望は現在はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりをご自分のペースで生活しています。休息も就寝も自由にして頂いています。要就寝介助の方々は、体調や状況に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個別ファイルに服用薬の薬情書を保管し職員が確認できるようにしています。服薬確認後、ケア日誌に記録しています。服薬変更時は、ケア日誌の特記欄記載や申し送り等で周知を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が自分でできることは自分でして頂き、家事なども手伝って頂くようお願いしています。レクリエーションやお楽しみ企画を定期的実施して生活を楽めるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、なかなか外出できませんが、施設の庭や近隣の散歩にお連れしたり、お天気の良い日は富士山を一望できるデッキで日光浴等して頂いています。少しずつ外出の機会を増やしていきたいと思っています	散歩が可能な利用者は事業所の周辺を週2~3回散歩し、他の利用者は庭で散策したり日光浴をしている。デッキでの日光浴は全員が楽しんでいる。近くの寺院や花見等にドライブにも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭を個別に所有していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始や季節の挨拶状を職員と一緒に作成して、ご家族様やご親族様に送り、ご家族の皆様にとっても喜んで頂いています。電話でご家族様と話をさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、施設内を丁寧に掃除し、清潔で居心地の良い環境に整えています。季節や気候の変化に合わせて、快適に過ごせるよう室内温度や湿度に気をつけています。トイレ・浴室・居室には表示をしています。	清掃に力を入れており、朝は共用空間と居室に掃除機をかけ、洗剤を付けたモップで拭きその後アルコール消毒をしている。夜は洗剤を付けたモップで共用空間を清掃している。空気の入換えに配慮し、温度、湿度について細かくエアコン等で調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっていますが、状況に応じて席替えをしています。リビングコーナーや畳の間などで、利用者様が思い思いにくつろいで過ごしていただけるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様の馴染みの家具や寝具を備え、写真や小物などを自由に飾って頂いています。衣替え・タンスやクローゼットの整理・寝具の手入れなどを一緒に行う居室担当職員を決めて支援しています。	クローゼット、洗面台、ベッド、エアコン、カーテンが据え付けられている。衣装ケース、衣装ダンス、椅子等の好みのものが持ち込まれ、家族写真、作品や年賀状等が壁面に飾られている。居室担当者が天気の良い日に、月3回空気の入換えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線に合わせた手摺りを設置し、フローには不要なものは置かないようにして安全の確保に努めています。トイレ等の案内表示をして自立した生活を支援するよう工夫しています。		